

備後教区報

第 152 号

即如さま ご門主をご退任

専如さま 第25代門主にご就任

CONTENTS

- ◇法統継承式 (P 2, P 16)
- ◇新役員の紹介
- ◇寄稿 - 『連研ノートEの願い』
- ◇NEWS & 活動情報
- ◇予報・インフォメーション



法統継承式より

法統継承式

現代の苦悩をともに背負い
御同朋の社会をめざして

第24代即如ご門主から法統を継承され、専如さまが第25代ご門主に就任された。6月5日の「御譲渡式」を終え、翌日6日に御影堂で行われた「法統継承式」の「式典」で専如ご門主は8000人の参拝者を前に、初の「ご消息」となる「法統継承に際しての消息」を發布された。



6月5日、第24代即如ご門主が「門主」退任を告げられる「御消息發布式」に続き日没勤行が行われ、閉門後に「御譲渡式」(非公開)が御影堂で厳粛に行われた。御譲渡式では第24代ご門主より親鸞聖人の御真影を安置する厨子の鍵と、ご門主の印章及び衣体を受けられた。

翌日の法統継承式では第1部で「法要」が勤まり、第2部の「式典」において専如ご門主が初の御消息を發布された。

御消息では、これまでの宗門の対応を厳しく振り返り、時代に迎合することのないように注意深く見極める必要があると指摘された。また、ご縁のない方へのはたらきかけや新たな伝道方法を模索する必要性を示され、現代の苦悩をともに背負い、御同朋の社会を目指して共に歩んでいくことを法統継承にあたり就任の決意を述べられた。

(写真は16ページ)

―法統継承に際しての消息―

本日、私は先代門主の意に従い、法統を継承し、本願寺住職ならびに浄土真宗本願寺派門主に就任いたしました。

ここに先代門主の長きにわたるご教導に深く感謝しますとともに、法統を継承した責任の重さを思い、能う限りの努力をいたす決意であります。

釈尊の説き明かされた阿弥陀如来のご本願の救いは、七高僧の教えを承けた宗祖親鸞聖人によって、浄土真宗というご法義として明らかにされ、その後、歴代の宗主方を中心として、多くの方々に支えられ、現代まで伝えられてきました。その流れを受け継いで今ここに法統を継承し、未来に向けてご法義が伝えられていきますよう、力を尽くしたいと思えます。

宗門の過去をふりかえりますと、あるいは時代の常識に疑問を抱かなかつたことによる対応、あるいは宗門を存続させるための苦渋の選択としての対応など、ご法義に順っていないと思える対応もなされてきました。このような過去に学び、時代の常識を無批判に受け入れることがないよう、また苦渋

の選択が必要になる社会が再び到来しないよう、注意深く見極めていく必要があります。

宗門の現況を考えます時、各寺院にご縁のある方々への伝道はもちろんのこと、寺院にご縁のない方々に対して、いかにはたらきかけていくのかを考えることも重要です。本願念仏のご法義は、時代や社会が変化しても変わることはありませんが、ご法義の伝え方は、その変化につれて変わっていくかねばならないでしょう。現代という時代において、どのようにしてご法義を伝えていくのか、宗門の英知を結集する必要があります。

また、現代のさまざまな問題にどのように取り組むのか、とりわけ、東日本大震災をはじめとする多くの被災地の復興をどのように支援していくのかなど、問題は山積しています。

「自信教人信」のお言葉をいただき、現代の苦悩をともに背負い、御同朋の社会をめざして皆様と歩んでまいりたいと思えます。

平成二十六年 六月六日
二〇一四年

龍谷門主 釋専如

新役員の紹介

任期満了に伴い役員の改選がありましたのでご報告いたします。

備後教堂参与幹事会

会長

深津 組 専光寺 藤井 芳則

副会長

鴨川北組 照専寺 大田 克美

御調束組 大通寺 助永 一男

幹事

備中里組 教善寺 竹原 良枝

奥 組 教蓮寺 藤原 稔

鴨川 組 福泉坊 小林幡太郎

三次 組 法正寺 和田 邦二

寺院振興対策委員会

三次 組 覚善寺 常光 和信

深津 組 誓蓮寺 藤井 春勝

比婆 組 円光寺 豊浦 順海

御調西組 法泉寺 小島 照行

実践運動教区委員会

委員長

備後教区教務所長 菊池 宗城

副委員長

三次 組 覚善寺 常光 和信

比婆 組 円光寺 豊浦 順海

中央委員 御調西組 法泉寺 小島 照行

委員

備中里組 浄心寺 津田 雅行

備中里組 正専寺 田口 竹子

中 組 光栄寺 佐藤 知水

奥 組 増福寺 藤本 直樹

奥 組 浄福寺 西家 昭二

深津 組 光善寺 苅谷 友之

深津 組 崇興寺 深田 篤

鴨川 組 泉龍寺 坂田 秀磨

鴨川北組 真光寺 古孝 隆範

鴨川北組 照専寺 三島 当子

沼隈西組 西明寺 赤柴 証悟

沼隈南組 寶福寺 延廣 正行

沼隈南組 善正寺 那須 英信

芦田 組 明浄寺 立神 義昭

神石 組 正善寺 熊原 得也

三谿 組 専教寺 鎌倉 行雄

三次 組 西善寺 小武 正教

御調束組 金剛寺 金岡 親量

御調束組 正典坊 河原 幸造

世羅 組 浄楽寺 栗原 一乗

実践運動教区常任委員会

委員長

備後教区教務所長 菊池 宗城

副委員長

三次 組 覚善寺 常光 和信

比婆 組 円光寺 豊浦 順海

中央委員 御調西組 法泉寺 小島 照行

常任委員

奥 組 増福寺 藤本 直樹

芦田 組 明浄寺 立神 義昭

世羅 組 浄楽寺 栗原 一乗

深津 組 崇興寺 深田 篤

鴨川北組 照専寺 三島 当子

教区事業推進委員会

会長

備後教区教務所長 菊池 宗城

副会長

備中里組 地福寺 高橋 了融

御調西組 法泉寺 小島 照行

委員

同朋社会部会、門信徒部会、広報伝道部会の委員

教区事業推進常任委員会

会長

備後教区教務所長 菊池 宗城

副会長

備中里組 地福寺 高橋 了融

御調西組 法泉寺 小島 照行

常任委員

深津 組 光円寺 平山 智正

沼隈西組 浄泉坊 桜田 淑子

沼隈西組 西明寺 赤柴 証悟

芦田 組 光明寺 千葉 隆誓

比婆 組 西教寺 藤井 義英

比婆 組 西念寺 栗原 尚道

三次 組 西善寺 小武 正教

御調束組 最円寺 三浦 義純

世羅 組 光永寺 毛利 慶典

教区事業検討委員会

実践運動教区常任委員会委員
教区事業推進委員会常任委員

同朋社会部会

部長

三次 組 西善寺 小武 正教

副部長

比婆 組 西念寺 栗原 尚道

世羅 組 光永寺 毛利 慶典

幹事

鴨川 組 福泉坊 季平 芳照

沼隈西組 萬福寺 松林 英水

委員

備中里組 地福寺 高橋 了融

深津 組 光行寺 苅屋 光影

鴨川北組 照専寺 佐々木至成

鴨川北組 宝泉寺 佐藤 秀圓

芦田 組 慶照寺 田坂 英尊

三谿 組 照善坊 福岡 真也

比婆 組 西念寺 中山 忠明

三次 組 西覺寺 伊川 大慶

三次 組 福泉坊 水戸 浩文

御調束組 尊光寺 武田 大俊
世羅組 了安寺 安部 司苑
世羅組 正満寺 平田 淳治

門信徒部会

部長

比婆組 西教寺 藤井 義英
副部長

奥組 増福寺 藤本 直樹
沼隈西組 西明寺 赤柴 証悟
幹事

深津組 光明寺 藤間 幹夫
沼隈西組 浄泉坊 桜田 淑子
委員

備中里組 正専寺 田口 竹子
中組 光栄寺 佐藤 知水
奥組 浄福寺 西家 昭二
深津組 慶満寺 松井 一昭
沼隈西組 万福寺 杉原 静子
沼隈南組 西光寺 箱田 義信
芦田組 徳円寺 下間 一弘
神石組 法泉寺 川上 順之
三次組 西福寺 常光 香誓
御調束組 大通寺 大淵 英範
御調西組 梅林寺 盛田由美子
世羅組 照明寺 菅 治隆

広報伝道部会

部長

深津組 光円寺 平山 智正

副部長

芦田組 光明寺 千葉 隆誓
御調束組 最圓寺 三浦 義純

中組 辻之坊 杉原 顕正
奥組 浄福寺 山下 瑞門
鴨川組 正覚寺 竹政 信至
鴨川組 浄光寺 小林 朋行
鴨川北組 圓福寺 三條 義見
沼隈西組 万福寺 河村 祐昭
沼隈西組 最明坊 日根 明俊
沼隈西組 大東坊 那須 智雄
芦田組 西福寺 山名 孝彰
神石組 正善寺 熊原 得也
御調西組 専光寺 藤井 迎朋
世羅組 浄楽寺 栗原 一乗

各種専門委員会

同宗連専門委員

備中里組 専教寺 佐々木 龍生
中組 徳善寺 後谷 唯史
奥組 教蓮寺 那須 照嗣
深津組 専明寺 原田 顕照
鴨川組 福泉坊 季平 恵海
鴨川北組 光明寺 吉岡 隆義
沼隈西組 光満寺 赤柴 宏丞
沼隈南組 福泉坊 高山 秀基
芦田組 善行寺 堤 有年
神石組 正善寺 熊原 得也

三谿組 法専寺 加藤 哲真
比婆組 西念寺 栗原 尚道
三次組 西善寺 小武 正教
御調束組 光林寺 箱田 正文
御調西組 西王寺 西王地 教清
世羅組 光永寺 毛利 慶典

法式法務専門委員

委員長 芦田組 明浄寺 立神 義昭
副委員長 深津組 光円寺 平山 智正

鴨川組 浄光寺 小林 朋行
沼隈西組 万福寺 河村 祐昭
芦田組 光明寺 千葉 隆誓
御調束組 照源寺 久本 晃道
御調束組 最円寺 三浦 義純
御調西組 光徳寺 藤田 徹信

FM専門委員

委員長 世羅組 浄楽寺 栗原 一乗
副委員長 鴨川組 勝願寺 足利 義信
深津組 正福寺 廣田 光宣
委員 中組 光栄寺 佐藤 知水
奥組 増福寺 藤本 直樹
深津組 崇興寺 枝廣 慶樹

深津組 光明寺 藤間 幹夫
深津組 光円寺 平山 智正
深津組 光行寺 苅屋 光影
深津組 慶満寺 松井 一昭
鴨川組 浄光寺 小林 朋行
鴨川北組 照専寺 佐々木 弘海
沼隈西組 円福寺 三條 義見
沼隈南組 南禅坊 那須 智雄
三次組 西覺寺 伊川 百壽
三次組 専正寺 深水 顕真
神石組 正善寺 熊原 得也
世羅組 善行寺 真澄 慎一
世羅組 照明寺 菅 治隆

IT専門委員

委員長 三次組 専正寺 深水 顕真
副委員長 深津組 光明寺 藤間 幹夫

委員

奥組 教蓮寺 那須 昭範
深津組 法真寺 生駄 真
深津組 専光寺 藤井 明徳
深津組 光円寺 三次 弘樹
鴨川組 浄光寺 小林 朋行
鴨川組 正覚寺 廣本 勝己
御調束組 照源寺 久本 晃道

教区報専門委員

委員長

比婆組 西教寺 藤井 義英

副委員長

世羅組 浄楽寺 栗原 一乗

委員

奥組 浄福寺 山下 瑞円

深津組 光行寺 苅屋 光影

深津組 慶満寺 松井 一昭

芦田組 西福寺 山名 孝彰

三次組 源光寺 福岡 玄猷

御調東組 照源寺 久本 晃道

御調西組 専光寺 藤井 迎朋

組勤式推進員

備中里組 蓮乗寺 田井 智彦

中組 蓮通寺 三宅 信行

奥組 浄福寺 山下 瑞円

深津組 専光寺 藤井 明徳

鴨川組 正覚寺 竹政 信至

鴨川北組 照專寺 佐々木弘海

沼隈西組 福照坊 岡部 哲應

沼隈南組 法輪寺 足利 法水

芦田組 妙泉寺 矢追 貴祥

神石組 正光寺 和泉 裕生

三谿組 善徳寺 長谷川憲章

比婆組 光縁寺 渡邊 真雄

三次組 照林坊 明山 晃映

御調東組 大通寺 大淵 英範

御調西組 正明寺 沼隈 純

世羅組 明善寺 長岡 宗道

門徒総代会世話人

座長

御調東組 正典坊 河原 幸造

副座長

奥組 善教寺 河上 勲

世話人

備中里組 浄心寺 内海 義郎

中組 徳善寺 岩井 耕一

深津組 誓蓮寺 藤井 春勝

鴨川組 泉龍寺 吉岡 卓志

鴨川北組 泉蔵坊 松川 隆治

沼隈西組 万福寺 寺岡 清治

沼隈南組 南泉坊 高田 靖正

芦田組 明浄寺 錦織 徹也

神石組 光徳寺 江村 良治

三谿組 正覚寺 今井 正治

比婆組 禅仏寺 寺岡 政徳

三次組 真光寺 三吉 献二

御調西組 龍見寺 首藤 武昭

世羅組 正満寺 新谷 隆之

組キッズサンガボーター

(チーフ・サブの順)

備中里組 高運寺 塩田 由成

備中里組 地福寺 高橋 慧

中組 光栄寺 佐藤 知水

中組 辻之坊 杉原 顕正

奥組 増福寺 藤本 直樹

奥組 光傳寺 金藤 恵幸

団長

備後教区教務所長 菊池 宗城

副団長

深津組 光榮寺 平山 義文

沼隈南組 善正寺 那須 英信

世羅組 浄楽寺 栗原 一乗

参与

深津組 光榮寺 平山 義隆

委員

備中里組 蓮乗寺 田井 智彦

奥組 浄福寺 山下 義円

深津組 光円寺 平山 智正

沼隈南組 光源寺 北山 祐章

沼隈南組 南泉坊 岡部 正顕

芦田組 善行寺 堤 有年

神石組 法泉寺 川上 順之

三谿組 善徳寺 長谷川憲章

比婆組 西教寺 藤井 義英

三次組 源光寺 福岡 玄猷

三次組 円勝寺 部 晃尊

御調東組 法光寺 季平 博昭

世羅組 教専寺 福岡 義朝

青年代表 鴨川北組 円福寺 三條 義見

寺族婦人会連盟役員

委員長

鴨川北組 照専寺 佐々木和子

副委員長

備中里組 浄心寺 津田 治子

各教化団体

布教団役員

深津組 崇興寺 枝廣 慶樹

深津組 正善寺 藤井 教証

鴨川組 勝願寺 足利 義信

鴨川北組 福泉寺 児玉 隆志

鴨川北組 正明寺 渡辺 浩之

沼隈西組 宝泉寺 佐藤 秀信

沼隈西組 最明坊 日根 明俊

沼隈南組 大東坊 那須 智雄

沼隈南組 南禅坊 高階 百壽

芦田組 妙泉寺 箱田 義信

芦田組 慶照寺 箱田 晃哲

神石組 金蔵寺 田坂 英尊

神石組 法泉寺 杉原 秀晃

三谿組 善徳寺 川上 順之

三谿組 立泉寺 長谷川憲章

比婆組 浄蓮寺 一條 照代

比婆組 円正寺 法蘊 浩信

三次組 源光寺 福岡 崇史

三次組 西覚寺 伊川 玄猷

御調東組 円龍寺 池上 大慶

御調東組 青松寺 中野 篤史

御調西組 善教寺 小島 信章

御調西組 法泉寺 小島 芳照

世羅組 法泉坊 毛利 令就

世羅組 光源寺 真教寺春窓

御調束組 尊光寺 武田 宣子

委員 中組 西明寺 実相由紀子

奥組 浄福寺 山下 里絵

深津組 光榮寺 平山 寿賀

深津組 光蓮寺 仁科 恵子

鴨川組 勝願寺 足利由希子

鴨川北組 正明寺 渡邊 篤子

沼隈西組 正藏坊 藤原 裕子

沼隈西組 西明寺 赤柴不二恵

沼隈南組 善徳寺 佐藤 香織

芦田組 明浄寺 立神多恵香

神石組 教西寺 馬屋原 純

三谿組 専教寺 鎌倉恵利子

比婆組 徳了寺 村上 聖子

比婆組 西明寺 黒岩 初美

三次組 高輪寺 吉田ゆきえ

三次組 光西寺 長田真由美

御調束組 大通寺 大淵 恵

御調束組 法泉寺 小島 篤子

世羅組 明善寺 長岡 素子

世羅組 正満寺 島津 智子

仏壯連盟役員

理事長

深津組 崇興寺 深田 篤

副理事長

比婆組 西楽寺 千代丸一明

御調束組 光林寺 元廣 清志

顧問 深津組 正福寺 石井 輝美

役員 深津組 正福寺 森久 繁

深津組 正福寺 森久 繁

芦田組 明浄寺 平井 省三

神石組 泉正寺 佐藤 雅俊

三谿組 立泉寺 平岡 誠

比婆組 圓光寺 渡邊 耕三

三次組 法正寺 塩田 博惟

三次組 東光坊 坂根 弘視

御調束組 光林寺 元廣 清志

御調束組 大通寺 甲田 正規

御調束組 法泉寺 菜原 繁一

世羅組 善行寺 豊田 哲夫

スタッフノートも用意

このノートEの特徴はスタッフノートが用意されていること。「連研」スタッフがこのノートを使つてどのような「連研」を開催するのか、その連研の原点と今日的課題を確認するための手引き書となっており、ファイルできるよう、左側2穴があり『連研ノートE』と併せて活用できる。

このスタッフノートに掲載されている内容について松野尾師は、過去30年の「連研」の実績から現在と今後に求められる「連研」の要素の変化を挙げた。その一つに「教養講座」「知識習得型」から「話し合い法座を通して自らを確かめ、新たな出会いをいただくことにある」とした。その背景には今日の宗門の課題が団塊世代以降の人々へアプローチにあると説明。このため、このノートを使いこなすには、連研スタッフがしっかりとした事前打ち合わせをし、「連研」開催の願い、目的、参加者へアプローチなど、確認の必要性があることを説明した。

投稿者の 寄稿

『連研ノートE』の願い



▲松野尾慈音師

教材制作部会の松野尾慈音師を招き「連研のための研究会」より教区の現状の中でどのように活用するのか

待望久しい「門徒推進養成連続研修会」(以下「連研」)のためのテキスト『連研ノートE』(門信徒教化部編・A4判・頁数72ページ)が去る3月発行された。『連研ノート』A・B・C・Dの続編で、体裁はこれまでのノート形式からフラットファイル形式に変更し、レジュメや関連資料も同時に挟み込みし保存できるよう、より実用的な配慮がなされている。各組独自の資料を挟み込めば、オリジナルな組「連研ノート」の作成も可能である。確かに機能的で実用的であるが、その内容は現状の備後教区内の組「連研」にどのように活用可能なのか、「連研」を所掌する門信徒部会では7月8日、このノート制作の中心的メンバーである教材作成部会の松野尾慈音・東海教区明願寺住職を講師に招き「連研のための研究会」をテーマ「連研ノートEのねらい」で開催した。以下、その内容まとめてみた(文責・門信徒部会)

「起承転結」の構成が目指すもの

たとえば「12の問い」の構成が1→2は「起」、3→6が「承」、7→10が「転」、11→12が「結」となっている。これまでのノートの研修によると、知識を体系的に学ぶので「宗教↓仏教↓真宗↓現実問題」という構成になっているので、研修も進めやすかった。

しかし、このノートEは「自分の内面を掘り下げ↓自分と社会との関わりを確かめ↓新たなであ

『教養・知識型』から回塊の世代へアプローチ

を」となっているから、一つのストーリーによって構成される。そこから「起承転結」が生まれたものと思える。スタッフには話し合い法座の方向性を確認し合うことや、やたら聖典などの言葉を引用しないように心がけることが必要となる、とも指摘している。

この研修会を終えて門徒推進員の人々に感想を聞くと好評で「このノートEにそって話し合い法座をしてみたい」という意見があったのに対し、僧侶側では首を傾げ

る人が多かったのも事実である。

確かに備後教区16組中14組が「連研」を開催経験をもつという驚異的な達成率であるが、現状はやはり「教養講座」「知識習得型」が多い現状だ。松野尾師は決してこうした「連研」を否定しているのではない、と前置きし、少しでも『連研ノートE』が目指す方向性に近づいて欲しい、と強調した。最後に、このノートの願いについて、ある教区の『門徒推進だより』に掲載された参加者の思いを紹介されたので別掲する。

「ひとつの気づき」

(岡崎市亀井町・犬塚晶子さん)

2年前、義父が亡くなったことがきっかけで、初めてお寺とご縁ができた。そのころから真宗の本を読み始めました。お寺にも少しずつ通っているうちに、連研のことを聞き「心のよりどころ」という言葉にひかれて参加しました。日常のしがらみのない新しい場所で、自分の心から湧いてくるウソのない言葉を話せるというのが新鮮で、と

自分の内面を掘り下げ新たな出会いへ

でも楽しいです。

11月に第1回の連研に参加し、半月ほどたった12月の肇に、以前には考えられなかったような心境の変化がありました。それは脚立の上から落ちて腰を強打した時、突然起こりました。

それはそれは痛くて、しばらく動けないほどでした。でも、その痛みよりも、驚きのほうが大きかった。「こんなことが私に起きるなんて信じられない」と、すぐくびくくりしたんです。脚立から落ちる直前の瞬間まで、落ちるなんて思いもしなかったのに「こんなに全く予期しなかったことが起こることってあるんだ」と、本当にびっくりしました。

そうしたら「ああ、このことだったのか」と、急にすっと、腑に落ちたんです。「無常」とか「人生、思い通りにならない」って、こういうことだったのかと。心が突然わかった感じでした。そして何故だか感謝の念が湧いてきました。それは「打ち所が悪くなくてよかった」とか「骨折はしていないよ、ありがたう」というようなことではなく、この事故のおかげで、真実の姿を見せてもらえたという喜び

のようなものでした。それからは「どんなことだって起こりうるんだ」というのがいつも心にあって、少し、世界が以前とは違った見え方をするようになりました。

こんな心境の変化があっても、当初はそれと阿弥陀さまが全く結びつきませんでした。でも最近になって「生きとし生けるものをことごとく救って仏にせずにはおかぬ」と聞いてきて阿弥陀さまのはたらきが、こうした形で私に届いたのかしら？(↑まだハテナマーク付きですが)、思うようになってきました。

でも、日常の私は全く変わりません。日々起こる様々なことに振り回され、一喜一憂する日々です。自分はやっぱり正しいと思えないし、正しいと思っている自分が悪いなんてどうしても思えない。

でも、前回オブザーバーの僧侶の方からかけられた「聞いていればそのうち必ずわかります」という言葉が今の私の希望になっています。これからも楽しみながら参加していきたいと思えます。よろしくお願いします。

&活動情報

News

「蓮如忌」に出勤

【勤式】教区勤式指導所(藤田徹信勤式指導員)では、5月11日、12日、前期勤式研修会を顕証寺(大阪府八尾市近松照俊住職)での法要実習として開催。



今回の研修では、顕証寺「蓮如忌」への法要出勤をメインとしており、80名以上の出勤者とともに備後教区内僧侶11名が出勤した。

▶ 顕証寺にて

▼ 蓮如忌法要



僧侶研修会



▲ 徳永一道和上

【広報伝道部会】5月15日、御調束組照源寺(久本晃道住職)を会所とし僧侶研修会を開催。講師は勸学寮頭の徳永一道和上をお招きし、「宗教の社会性」についてご講義された。64名の教区内僧侶が参加。

教区では、本研修会の開催時期、開催場所、研修内容等、次年度以降の開催内容について更なる検討をしていく。

▶ 照源寺会館にて
研修の様子



実践運動研修会



▲ 岩間行則講師

【仏婦連盟】6月26日、仏婦連盟(三島当子委員長)では、寺族婦人会連盟(佐々木和子委員長)との合同で実践運動研修会を開催しそれぞれ仏婦会員145名、寺族婦人35名が参加。講師は岩間行則師(本願寺ウイスタリアガーデン施設長)で、「今、求められているもの」と題し講義された。



▲ 研修の様子

教区月報

5月	8日	仏婦役員会 布教団役員会 ビハークラ役員会
9日	11日	教堂常例法座 勤式研修旅行 (12日八尾市 顕証寺)
12日	15日	寺婦役員会 僧侶研修会 (御調束組照源寺)
15日	16日	保育連絡協議会 平和のつどい実行委員会
17日	22日	仏壮役員会 教区事業検討委員会 寺婦新旧役員会
23日	29日	同朋三者懇委員会
6月	3日	キッズサンガ委員会
4日	5日	真宗講座第6回 法統継承式(6日 本山)
11日	12日	教堂常例法座 寺族婦人会総会 法務法務委員会
13日	17日	教堂責役総代会 寺院振興対策委員会 保護司会設立総会
18日	19日	組長会 布教団総会・研修会

同朋三者懇話会

【同朋社会部会】6月2日、同朋三者懇話会が備後教区担当にて福山市人権交流センターに於いて開催された。備後教区からの出席者は菊池宗城教務所長・事務局を含め14名。発表は小武正教委員より「安心論題『真俗二諦』は今―浄土真宗本願寺派の現実から問いただす―」と題して行われた。全体の参加者は約45名。

補任式、研修会

【保育連盟】7月5日、隔年で開催される保育連盟新任教職員補任式・研修会が備後教堂本堂に於いて開催された。受式者は6園より13名。菊池宗城教務所長より補任状、熊原得也委員長より記念品贈呈が行われ、研修会では島津恵航師(世羅組正満寺)よりご法話をいただいた。



▼補任状授与



子どもへの対応を学ぶ

【少年連盟】7月9日、備後教堂にてキッズサング公開講座(少年連盟指導者研修会)が備後教堂で開催された。講師に臨床心理士・スクールカウンセラーの武田正文先生(山陰教区邑智東組高善寺)をお招きし、「現代の子どもの理解と関わり方」をテーマに、発達障害について、またキッズサングにおける子どもへの対応について講義をいただいた。

中四国ブロック少年連盟指導者研修会

【少年連盟】7月3日・4日、本願寺広島別院において、中四国ブロック少年連盟指導者研修会が開催された。備後教区からは14名の参加。3日は「子どもたちへの望ましい接し方」と題し、山出久男先生(サンフレッチェ広島普及部部長・アカデミーダイレクター)より、JFAキッズリーダーU-6講習会が行われた。4日は「よく飛ぶ紙飛行機を作ろう!」と題し、中野正之先生(東急ハンズ木工房スタッフ)より実演をいただいた。



▲広島別院にて
▼研修の様子



28日	27日	26日	24日	18日	17日	12日	11日	9日	9日	9日	8日	5日	4日	3日	2日	7月	30日	27日	27日	26日	23日	23日	21日	20日
門徒総代会世話人会	仏壮夏期研修会 (三谿組立泉寺)	わかちあいの会	同朋部会	門徒推進員のつどい	寺婦役員会	特別布教大会(備中里組教善寺)	教堂常例法座	勤式練習会	キッズ公開講座	キッズサポーター連絡協議会	少年連盟総会	連研のための研究会	保育新任補任式研修会	門推世話人会	ビハーフ役員会	同朋社会部会	広島同宗連役員会	連研新教材普及学習会	門推世話人会・門信徒部会	仏婦実践運動研修会 (24日 備後教堂)	勸学寮真宗講座	門推連絡協議会	仏壮連盟役員会	布教団夏期布教大会

門徒推進員のつどい

【門推】7月18日、備後教堂にて門徒推進員のつどいが開催された。各組より22名の門徒推進員が参加した。午前中は連絡協議会、そして門信徒部会委員の佐藤知水師(中組光栄寺)に「御同朋の社会をめざす運動―門徒推進員の心得―」をテーマに講義をいただき、午後は講義をふまえて班別の話し合い法座を行った。

連研ノートEのねらい

【連研】7月8日、備後教堂にて連研のための研究会が開催された。講師に『連研ノートE』の作成に携わられた松野尾慈音師(東海教区額田組明願寺)をお招きし、各組より組長、副組長、組連研スタッフ、門徒推進員計42名参加のもと『連研ノートE』の意義・ねらいについてお話いただいた。



▲連研ノートE (¥810)
スタッフノート (¥216)

仏壮連盟夏期研修会

【仏壮】7月27日、三谿組立泉寺に於いて仏壮連盟夏期研修会が開催された。宮本義宣師(仏教壮年会連盟講師、東京教区神奈川組高願寺住職)より「法統継承された専如ご門主のご消息をいただきたい」とテーマを掲げ、即如前門様、専如ご門主様のご消息を細かく紹介された。また、現代・将来の社会状況を踏まえ、教団は何をすべきか、仏壮会員はどう関わっていくべきかを語られた。

全国真宗青年の集い

【仏青】去る7月26日(土)〜27日(日)、専如ご門主様ご臨席のもと、札幌別院を会場に『全国真宗青年のつどい北海道大会』が開催された。備後教区からは職員含め5名で参加し、大平光代さんの基調講演、仏前結婚式をモチーフとしたファッションショー、北海道教区仏青会員による朗読劇など、仏青の可能性、そしてこれから(未来)を考える大会となった。

◀模倣仏前結婚式・ファッションショー



▲研修会終了後皆さんと一緒に

▼松野尾慈恩師(右)



▼仏壮会員の皆さま



▲宮本義宣師



▲金尾さん親子、
米沢さん家族が参加

第14回全国布教使大会

【布教団】5月29日～30日、本

願寺において、第14回全国布教使大会が開催された。29日の午前

総会所において3名の記念

布教があり、午後からは平安

高校講堂において、「布教使

大会白熱教室」と題され、小

林正弥氏(千葉大学大学院教

授)による対話型講義が行わ

れた。30日には阿弥陀堂にお

いて物故者追悼のつどいが

行われ、その後、御影堂にお

いて勸学寮頭である徳永一

道和尚より「浄土真宗法義の

公共性ということ」と題さ

れ、ご講義をいただいた。



▲御影堂にて

布教団

「布教使の心得」を学ぶ

夏期布教大会開催

6月19日平成26年度定期総会を
備後教堂にて開催。午前中、前

年度の行事報告及び決算に

ついて承認を受けた。また、

役員改選では、新役員(2

年任期)が決まり、新たな

スタートを切った。午後の

研修会では、小林顕英師(大

阪教区法栄寺)に「布教使

の心得」をテーマに研修を

受けた。

20日の夏期布教大会にお

いては、午前午後とお取次

ぎが行われ、教区内外より

約90名が参加。

出講者は本講師の小林顕英師、伊

川大慶師(三次組西覺寺)、栗原

一乗師(副団長 世羅組浄楽寺)、

平山智正師(深津組光円寺)、深

水正道師(三次組専正寺)の5名。

特別布教大会

7月12日、備中里組教善寺(千
葉隆之住職)を会場に特別布教大
会を開催し、4名の布教団員がお
取次ぎをした。出講者は川上順之
師(神石組法泉寺)、長谷川憲章

師(三谿組善徳寺)、真澄真一師
(世羅組善行寺)、平山義文師(副
団長 深津組光栄寺)。



▲平山義文副団長

◀熱心に聴聞されるお同行



死ぬじゃのうて
生きること
なむあみだぶに
生きること

浅原才市

くに
郷音
心に
コト
言
葉

願記

責任役員
について

○責任役員の人数は？

各寺々則の条文の中に(員数)「この寺院には、○人の責任役員を置き、そのうち1人を代表役員とする」とあるように、責任役員の定数は寺則によって定められています。また、門徒総代についても同様に員数が寺則の中に定められています(各寺の寺則によって謳われている数は異なります)。さらに、責任役員のうち少なくとも1人は、門徒のうちから門徒総代が選んだものでなければなりません。

○任期は？

(責任役員の任期)「代表役員以外の任期は、4年とする。但し、再任されることができ
2 補欠によって、就任した

責任役員の任期は、前任者の残任期間とする。」

○役員の申請はどうするの？

責任役員の申請は、任期4年ごとに本山に提出する必要がある。申請書類につきましては、本願寺ホームページ内「宗務所各部運用サイト」↓「お寺の情報箱」↓「願記取扱要綱」よりダウンロードできます。または、教務所にお問い合わせ下さい。
責任役員が全員再任の場合、願記冥加金は不要です。ただし、一人でも役員に変更がある場合、または、4年の任期が満了しその後1年間が経過した後の申請は次の冥加金が必要です。

本山 12,000円
教区 6,000円

責任役員が任期中に死亡または辞任された場合、すみやかに補充員を任命する必要がある。

ります。その場合、新しく就任した役員の任期は前任者の残任期間となります。また死亡により退任の場合、死亡を証明する書類が、辞任の場合、退任願が必要です。

○申請書類の提出は

いつどこに？

申請書類の提出先は教務所です。任期満了の一ヶ月前から受理できます。

※尚、責任役員任期満了日については各寺で異なるため、本山及び教務所からは通知されません。

予め各寺でご確認ください。

○所轄庁への役員名簿

提出の義務

宗教法人法第二十五条

「宗教法人は、その設立(合併による設立を含む。)の時に財産目録を、毎会計年度終了後三月以内に財産目録及び収支計算書を作成しなければならない。

ならない。

2 宗教法人の事務所には、常に次に掲げる書類及び帳簿を備えなければならない。一、規則及び認証書

二、役員名簿・・・

4 宗教法人は、毎会計年度終了後四月以内に、第二項の規定により当該宗教法人の事務所に備えられた同項第二号から第四号まで及び第六号に掲げる書類の写しを所轄庁に提出しなければならない。・・・」

とありますように、法人は毎年4月1日から7月31日までに、役員名簿の写しを所轄庁に提出する義務があります。

○注意事項

なお、責任役員・総代の任期が切れた場合、役員の同意を必要とするその他の願記(住職任命申請等)を提出する際には、同意が無効となりますのでご注意ください。

「ギンズ袋」
リリースしました！

キッズ
サン
ガ
エッズ

備後教区キッズサンガ推進委員会

などなど、みなさんのアイデア次第
寺院名の印など押されるのもよいと思います

よくわかんない・・・

① おばあちゃんのお命日に
家族でお寺へいったよ

③

ありがたう、おさがりだよ、よくやったね。



書いてあるの

⑤ おとうさん、また
お寺へつれていってね
よかったわね

今後の行事案内 インフォメーション

中四国ブロック

「寺院仏壮結成に向けた研修会」

と き 9月6日(土)
 ところ ゲストウェディング アルセ
 講 師 谷間徹誠 師(仏教壮年会連盟講師)

青年布教使大会

と き 9月29日(月)
 ところ 御調西組 南光寺
 出講者 6名

第19回平和のつどい

と き 9月30日(火)
 ところ 井原市芳井生涯学習センター
 講 師 知花昌一 師
 (真宗大谷派僧侶)
 内 容 「沖縄から見える日本の『平和』、
 そして親鸞さん」

教室常例法座出講者

(敬称略)

9月「仏縁をいただく」

荏屋光影(福山市光行寺)

10月「確かな道を歩む」

川上順之(神石郡法泉寺)

11月「自分を生きる」

小武秀道(三次市正法寺)

後期勤式研修会

と き 10月7日(火)
 ところ 御調東組 照源寺
 講 師 式務部会役者
 内 容 正信偈のお勤めを学ぶ
 椅子式作法

教化資料BOX

『こころのお見舞い』第7集

―香― 発行

県北青年僧侶の会「白鵠会」
 は『こころのお見舞い』第7集を
 発行しました。

「病床にある方へのプレゼント」
 をコンセプトに1984年に第1
 集が発行され30年になります。
 第7集「香」では香にまつわる

記事を満載していますので活用
 いただきますようお願い申し上げ
 ます。



『こころのお見舞い』―香―

キッズサンガ

大切なひとに伝えよう
 あなたのきもち



キッズサンガ花の種グッズ
 は、花の種といっしょにメッ
 セージカードを大切な人に送
 ることにより、人と人のこ
 ころを繋ぐ縁づくりを願い
 作製されたものです。

このグッズは無償ですが、
 発送を希望される場合は送料
 着払いでの発送となります。
 (詳細は教務所もしくは、本
 山ホームページにて)

お坊さんステーション

インターネットでのラジオ視聴方法

■ <http://fm777.co.jp/pc/index.html>

■ 上記ホームページの左上「ウェブラジオ」をクリック

■ 画面切り替わって中央の「映像スタート」をクリック

※ラジオ放送時間をご確認ください。

※動画は固定カメラでの映像です、基本は音声放送です。

放送時間

月曜・木曜 午後6時10分頃

Radio BINGO
FM77.7MHz各法人からの県庁への書類提出期限は
7月31日です。

広島県の寺院 (電話 082-228-2111)

〒730-0011 広島市中区基町 10-52
広島県庁内 環境県民局 学事課

岡山県の寺院 (電話 086-224-2111)

〒700-8570 岡山市北区内山下 2-4-6
岡山県庁内 総務部 総務学事課未提出の場合、10万円以下の過料処罰金が
発生します。お忘れなきようご留意下さい。

インフォメーション

〽 備後教区・今後の予定 〽

8月

1日 第7回真宗講座

11日 教堂常例法座

9月

6日 寺院仏壮結成に向けた研修会

11日 教堂常例法座

18日 千鳥ヶ淵戦没者追悼法要
(東京)

26日 ビハーラ研修協議会

29日 青年布教大会(御調西組南光寺)

30日 平和のつどい

10月

4日 連区門徒推進員研修会
(～5日 アルセ)

6日 同朋三者懇話会(広島)

7日 後期勤式研修会
(御調東組照源寺)

10日 門信徒のつどい

11日 教堂常例法座

14日 環境現地学習会(～16日)

16日 仏婦会員研修会

敬 弔

お悔やみ申し
上げます

「敬称略」

編集後記

去る六月、本願寺に於いて行われた御消息発布式と法統継承式に参拝してきました。全国各地からの八千人を超える参拝者で両堂や諸施設は満杯となった▼五日午後、即如ご門主は「退任に際しての消息」を發布され、夕刻より「御譲渡式」が非公開で行われた。翌六日には専如さまが第二十五代ご門主として「法統継承に際しての消息」を發布された▼二年前の四月には宗本区分の新体制となりましたが、今度のご門主が三十七年ぶりに交代され、大遠忌法要御満座の折りに發布された御消息にある「新たな始まり」をまさしく迎えることとなった▼教区内各地には今、急速な過疎高齢化の波が押し寄せている。古くからの行事が継続困難となり、組織や施設を伝え送ることが難しくなってきた▼両門さまは「社会の変動の中にあつて、浄土真宗のみ教えや伝統にある多様な可能性を見つけ出し」「現代という時代において、どのようにしてご法義を伝えていくのか」と示された。御消息を自分自身への呼びかけとして受けとめ、考えて行かなくてはと感じた。(K・H)

備中里組 大圓寺 前坊守 奥村 妙子 (5月3日寂)	神石組 光福寺 前住職 佐武 健章 (5月21日寂)	比婆組 西明寺 前坊守 黒岩 良子 (5月24日寂)	御調東組 浄泉寺 坊守 遊亀山 順子 (6月22日寂)	御調東組 永正寺 前住職 柿原 昇乗 (6月27日寂)	沼隈南組 善行寺 前住職 熊谷 真順 (7月18日寂)	沼隈南組 寶福寺 前住職 延廣 榮昌 (7月24日寂)	中組 徳善寺 前坊守 後谷 千敏 (7月26日寂)	鴨川組 勝願寺 衆徒 河相 昭雄 (7月30日寂)
----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

6月5日・6日

法統継承式

御同朋の社会をめざして

即如ご門主がご退任

専如ご門主が法統を継承



▲御譲渡式



▲流豆美お裏方は仏教婦人会
総連盟総裁にご就任



▲御衣体



▲御影堂御厨子の「御鍵」、ご門主の
公的な「御印」

前回の法統継承式

1977(昭和52)年3月31日に勝如ご門主は門主退任を告げられ、翌4月1日に「御譲渡式」が行われた。

この法統継承式を承け、「伝灯奉告法要」が1980(昭和55)年4月から10月にかけて修行された。

第23代勝如ご門主から第24代即如ご門主へ。



▲御譲渡式



写真提供：本願寺出版社